

第14回(平成26年度)私立短大入試広報担当者研修会  
分科会7報告書

運営委員：伊吹憲昭（女子栄養大学短期大学部）

関心の高いテーマ：高校訪問

① 大学紹介&自己紹介 3分/人

事前に各自で作成をしていただいていた「大学紹介(A4版)」を使いながら、自己紹介、大学紹介、また今回の分科会研修会のメインテーマとなる高校訪問についての現況の様子を発表。分科会内で討議していくうえでの共通認識を深めた。

② グループ討議

学生募集の最先端にあたる高校現場への訪問を効果的に行っていく上での方法について、討議を行った。日頃の高校訪問での悩みを共有し、どのように有効的な高校訪問を行うべきかを問い意見交換を行った。

なお、グループ毎の討議内容は次のとおり。

Aグループ：高校訪問の評価基準の作成

Bグループ：高校訪問は意味があるのか？ 「高校訪問はつらい」と「高校訪問は楽しい」

Cグループ：大学づくりのための高校訪問

③ グループ発表

グループでの討議内容を模造紙にまとめ、発表を行った。翌日の全体発表を想定し、1グループ5分以内とした。

発表後、明日の全体発表に向け、改善できる点などグループ内で最終確認を行う。

④ 事例紹介

運営委員より、高校訪問の事例報告として、目的、時期・回数、訪問エリア、高校側へ伝える情報、高校側より収集したい情報等を紹介。その後、分科会内での意見交換を行った。

⑤ 全体会での各分科会発表

発表前の準備時間で、グループ毎に発表の最終確認を行った。グループ毎にテーマや発表のトーンが適度に異なり、3グループの発表にストーリー性を持つため、発表方法にアレンジを施した。発表では、分科会7として団結力、また勢いも手伝い、「文句なしで1番で賞」の受賞となった。



## 総評

今回の分科会7では、高校訪問を軸に学生募集のあり方について、グループを中心とした討議を行った。広報業務の経験が浅い方も多く、高校訪問そのものが未経験というメンバーも見られたが、相互に活発な意見交換を行われていた様子であった。

しかし、活発に行われていたグループの討議の一方で、最終日の発表のための討議になった感も否めず、現状課題や有効性のある方法などについて、さらに掘り下げた討議が出来れば、より充実したものとなったように思える。

今回の分科会では、参加者から「各短大の現状が分かりたいへん充実した」「あらたな問題点が発見できた」といった声の一方で、「時間が短い」「もっと討議をしたかった」といった声も多く寄せられた。

時間的に余裕があれば、グループの組み替え、また分科会内全体での討議時間を設け、より多くの情報収集やあらたな考えのアイデアを生むきっかけになったかもしれない。

最終日の発表後、分科会メンバーの一人ひとりの表情が、自信を持ったそれに変化していると強く感じた。

今後の募集活動において、さらなる飛躍を確信することができた。

